

6) 金沢大学医学部附属病院における救急医療の現状

金沢大学医学部附属病院 救急部・集中治療部
柴田 恵 三Current Status of the Practice of Emergency Medicine
in Kanazawa University Hospital

Keizo SHIBATA

*Department of Emergency and Critical Care Medicine,
Kanazawa University Hospital*

This article describes the current status of the practice emergency medicine in Kanazawa University Hospital. The emergency department handles about 12,700 visits per year (35 per day) and acts as a triage point for all medical and surgical emergencies. The emergency and critical care departments work together and comprises six beds. Kanazawa University Hospital has paid attention to postgraduate training in the emergency and critical care departments and started the training programs since 1987. However, the specialty of emergency medicine is still in a rudimentary stage of development. The problems are many, including personnel issues, educational opportunities, the lack of necessary infrastructure. Task for emergency physicians include further development of medical skills of lifesaving technicians and ordinary ambulance personnel.

Key words: emergency medicine, postgraduate training
救急医療, 卒後臨床研修

I. 金沢大学附属病院救急部の歴史

昭和58年, 他の国立大学附属病院と相前後して当院にも救急部が開設され, 昭和59年1月4日から診療を開始した。救急部の開設に伴い, これまで各診療科において個別に対応されてきた救急患者の診療窓口が一本化されるとともに, 重症患者に対する迅速な初療も可能となったために, 救急診療体制は一段と強化された。昭和60年には集中治療部が開設され, 救急部・集中治療部という

形で一体運営されることになり, 24時間の診療体制が可能となった。昭和61年には院内措置により助手が2名増員されて合計6名となり, 幅広い救急疾患に対応できるようになった。さらに, 卒後臨床研修にも力を入れ始め, 昭和63年からは毎年30名前後の研修ローテーターを受け入れ, 救急医療の教育にも力を注いできた。平成8年には日本救急医学会の北陸地方会の事務局を引き受けるなど, 北陸地区の救急医療のレベル向上にも一役買っている。

Reprint requests to: Keizo SHIBATA,
Department of Emergency and Critical
Care Medicine, Kanazawa University
Hospital, 13-1 Takara-machi, Kanazawa
920-8640, Japan

別刷請求先: 〒920-8640 金沢市宝町13-1
金沢大学医学部附属病院救急部・集中治療部
柴田 恵 三

表 救急部の受診患者数の推移

	平成 8	平成 9	平成10	平成11年
患者総数	11,614	11,859	12,142	12,723 人
救急車による搬送	469	643	657	726 人
三次救急対応	139	202	243	277 人

Ⅱ. 金沢大学附属病院救急部の現状

集中治療部との一体運営により、6名の専任教官（うち2名は日本救急医学会認定医）が中心となって24時間体制で救急患者に対応している。長い年月にわたり昼夜を問わず地域医療を担当してきたという歴史的背景が考慮され、当院救急部は開設当初から時間外受診患者の受け入れに制限を設けないという方針が取られてきた。さらに、当院は金沢市内の中心部にあるため、年々受診患者は増加しており、平成11年には救急部の総受診患者数は12,723名（1日平均35名）に達した（表）。この数字は全国立大学附属病院の中で最多であり、平均の2倍を越えている。診療科別では、他院では受け入れが断られることの多い小児科、精神科領域の救急患者がそれぞれ2,615名（1日平均7名）、509名（同1.4名）含まれている。なお、表に示す三次救急対応とは、生命の危機が迫っている重症患者のことであり、救急隊による直送または二次救急施設からの紹介が主体である。ここ4年間の三次救急対応の著増が指摘できる。

Ⅲ. 金沢大学附属病院救急部の特徴

1. スタッフの公募制：基本的に専任教官は、6年以上の臨床経験を有しそれぞれの専門分野の認定医あるいは専門医を有していることを条件に公募している。任期は3年以上で、専門分野は呼吸、循環、神経あるいは外傷のいずれかとし、しかも各スタッフの専門がなるべく重ならないよう配慮することにより、幅広い救急患者に対応ができるよう努めている。

2. 卒後臨床研修体制：昭和62年から各科から研修ローテーターを受け入れ、救急医療の教育に貢献してきた。研修効率を維持するために同時期の研修医数の上限は6名としているために、現状では2カ月の研修期間で年間30名前後の研修医数となっている。研修終了後には、救

急患者のバイタルサインの把握、重症度および緊急度の判断、心肺蘇生法の適応判断と的確な実施できるように指導している。現時点では、専用病床や当直室の関係で、すべての研修希望者を受け入れることができないが、平成14年の新病棟完成の暁には、さらに多くの研修医の受け入れが可能と考えている。

3. メディカル・コントロールに積極的関与：

病院内の5箇所の救急専用電話（ホットライン）を設置し、救急隊との直接交信により救急患者の情報交換や心肺停止患者に対する特定行為の指示を与えるもとに用いている（オンライン・メディカル・コントロール）。また、消防学校に出張し、年75時間に及ぶ救急医療に関する講義を担当するとともに、救急事例の経過を救急隊へ情報還元したり、救急救命士の医療行為の評価を行う勉強会を年4回に行い（オフライン・メディカル・コントロール）、救急隊員の質を高めるべく努めている。

Ⅳ. 金沢大学附属病院の救急医療体制の課題

北陸は、救急医療の後進地区である。現在、当地区には救命救急センターとして4施設が指定されているが、いずれの施設も平成9年度厚生科学研究事業によって作成された「救命救急センターの要件：基本的な体制」の基準を満たしていない。そういった事情も関連し、当地区では初期、二次、三次の救急医療機関からなる救急医療体制の体系的な整備も進んでいない。救急医療体制の整備、強化は当地区の緊急の課題である。平成12年度には当地区で最初の救急医学教室が開設される予定であり、救急医療に携わる人材の育成が促進されるとともに、救急を専門としない医師にも基本的な救急医療を行えるよう教育する体制がさらに充実することになる。一方、当院救急部の抱える最も大きな課題は、救急患者専用の病床数の少ないことである（現在は集中治療室を含め6床）。他院からの三次救急患者の搬送依頼に対して、病床が確保できないために対応できない場合が少なからずあり、平成13年の新病棟完成が待ち望まれている。

司会 どうもありがとうございました。それでは最後に医学部附属病院長の立場から朝倉先生に追加発言をいただきます。よろしくおねがいます。